



平成25年度

宇陀市まちづくり活動応援補助金

成果報告書



宇陀市企画財政部まちづくり支援課

平成26年7月

## 目 次

「宇陀市まちづくり活動応援補助金」の概要	1
補助金の額	1
審査・評価の方法	1
審査委員	1
各事業の成果 ※以下事業名（ ）内は実施団体名	
(1) 宇陀市の神武伝承地を探り巡る事業（宇陀市の神話を考える会）	2
(2) ツルマンリョウ保存事業（ツルマンリョウ保存事業委員会）	4
(3) 宇陀松山華小路 ダリアな名物開発プロジェクト（宇陀松山華小路実行委員会）	6
(4) 宇陀観光プロジェクト（S I N C E 2 0 0 0）	8
(5) 花の里「西谷」プロジェクト（花の里「西谷」プロジェクト）	10
(6) 伊勢街道をテーマとした地域活性化事業（紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会）	12
(7) 市民参加まちの資源を考えるモデル事業（まちの資源を考える会「e c o うだ」）	14

## 「宇陀市まちづくり活動応援補助金」の概要

この補助金は、市民が主役のまちづくり並びに地域の個性を生かしたまちづくりを推進し、市の発展に寄与することを目的として、市内で活動する市民団体が自ら企画立案し、実施する事業に要する経費を補助することにより、市民活動の促進を図ろうとするものです。

補助対象事業は公募方式により募集し、第三者機関（宇陀市まちづくり活動応援補助金審査委員会）による厳正な審査を経て決定します。

## 補助金の額

補助金の額は、補助の対象となる経費の総額から当該事業の実施によって得られる収入を差し引いた額とし、50万円を上限とします。事業が継続して必要と認められる場合は、自立・発展性の観点から2年目は40万円を上限とし、3年目は30万円を上限とします。ただし、算出した額に1,000円未満の端数があるときは、これを切り捨てるものとします。

## 審査・評価の方法

### ①一次審査（書類審査）

補助金の対象事業として要件を満たしているか等の審査を行います。

### ②二次審査（公開プレゼンテーション）

以下の基準に基づき審査し、交付の優先順位を決定します。

新規性	<ul style="list-style-type: none"><li>事業内容に新しい発想、アイデアがあるか。</li><li>自主性をもった企画・運営となっているか。</li></ul>
公益性	<ul style="list-style-type: none"><li>地域活動支援の目的と合致しているか。</li><li>事業の成果が広く地域に還元されるものか。</li><li>事業参加の機会が広く住民に与えられているか。</li><li>市の施策と方向性が合致しているか。</li><li>応募者以外の市民や事業者、団体等に不利益を与えるものではないか。</li></ul>
必要性	<ul style="list-style-type: none"><li>地域の実情や住民要望に対応したものか。</li><li>地域の課題解決、あるいは活力向上に有効なものであるか。</li><li>ほかの方法で代替できないものであるか。</li><li>経費の使途が適切なものか。</li></ul>
実現性	<ul style="list-style-type: none"><li>目標（達成すべきこと）が明確なものか。</li><li>関係者との合意形成や応募団体等の内部での実施態勢が整っているか。</li><li>資金調達の規模や時期に無理はないか。</li></ul>
発展性	<ul style="list-style-type: none"><li>市の支援が終了した後の継続性や自立性、発展性は期待できるか。</li></ul>

## 審査委員

氏名	所属・職
濱田 嘉也	宇陀市ボランティア連絡協議会 会長
福角 登	宇陀市産業振興会議 委員長
川本 國昭	公募委員
稗田 睦子	公募委員
上山 幸寛	奈良県くらし創造部協働推進課 課長
前野 孝久	宇陀市副市長

※審査委員会当日（H25.3.24）現在

事業報告書

事業名	宇陀市の神武伝承地を探り巡る事業
実施団体	宇陀の神話を考える会
実施状況	<p>1. 神武伝承地講演会</p> <p>◆第1部 親子古事記講座 8月4日13:00～宇陀市文化会館研修室において、小・中学生とその保護者を対象に古事記神話をスクリーンに投影し、語り部が易しい言葉で解説しました。 参加者49名</p> <p>◆第2部「神武の足跡」講演会 同日、14:00～同所において、皇學館大学文学部教授 岡田 登教授を講師として、「大和宇陀神武天皇御聖蹟御図絵」を活用しながら宇陀市内の神武伝承地についての講演をおこないました。 参加者80名</p> <p>2. 神武伝承地現地講座 9月29日9:00～岡田 登先生と共に、大宇陀地域事務所からバスとハイキングで、丹生川上神社・丹生川上聖蹟碑～菟田の高城・桜実神社・八ツ房杉～宇賀神社・血原橋～菟田穿邑聖蹟碑～高倉山聖蹟碑を巡り、現地の自然を体感しながら講座を開設し、理解を深めました。 参加者57名</p> <p>【事業実施の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
事業効果	<p>宇陀市は、古事記や日本書紀に記されている神武東征伝説伝承地という歴史的資産を有していますが、その魅力を今回の事業実施に於いて、すべての参加者が実感でき得たものと確信いたしております。特に、市内在住の参加者の皆さんには、郷土に誇りと愛着が持てたものと推測いたしております。</p> <p>また、事業内容についても、アンケート調査を実施しましたが、回答者53名中29名が満足、23名がやや満足となっていました。</p> <p>さらに、アンケートの意見欄では、「この土地に根をもった歴史にとっても興味が持てました。」とあるように、宇陀市の持つ個性を生かし、その魅力を最大限に活用することで、必ずや宇陀市の活性化に繋がるものと大いに期待と希望を持つことができました。</p>
特記事項	

事業収支決算書

【収入】

科 目	金 額	内 訳
市補助金	451,000	宇陀市まちづくり活動応援補助金
負担金	55,000	参加費（バス借上料一部負担） 1,000円×55名 55,000
雑入	216	宇陀市の神武伝承地を探り巡る事業費助成金
合 計	506,216	

【支出】

科 目	金 額	内 訳
報償費	118,000	謝金 親子古事記講座講師 10,000 神武の足跡講演会講師 50,000 神武伝承地現地講座講師 50,000 神武伝承地現地講座看護師 5,000 丹生川上神社 3,000
需用費	187,366	消耗品費 事務用品（コピー用紙他） 64,646 食糧費 神武伝承地講演会スタッフ 800円×8名 6,400 神武伝承地現地講座講師他 1,000円×2名 2,000
役務費	37,350	印刷製本費 リーフレット 13,000枚 112,350 医薬材料費 神武伝承地現地講座 1,970 通信運搬費 郵送料 4,700 はがき100枚 5,000 手数料 リーフレット折込手数料 13,125 口座振込4件 525
使用料及び賃借料	163,500	保険料 神武伝承地現地講座 14,000 使用料 神武伝承地講演会会場 3,500 借上料 神武伝承地現地講座バス 80,000円×2台 160,000
合 計	506,216	

事業実施団体

名称	宇陀市の神話を考える会
所在地	宇陀市菟田野岩崎 2 1 - 1 3
設立の経緯・目的	宇陀に伝わる記紀万葉発祥地から、神武天皇や、市を代表する宇太水分神社・阿紀神社・室生寺など、多くの神社仏閣が建立されており、又数々の民話や伝説が残っている。こうした歴史的文化を探求することで、宇陀市のまちづくりに寄与することを目的として設立された。
主な活動内容	1. 平成24年 7月23日「宇陀の神話を考える会」発足式及び記念講演 (古事記・日本書紀と宇陀) 講師：宇陀市教育委員会 柳澤 一宏氏 参加者 60名 2. 平成24年11月28日「宇陀市神話を語るフォーラム」開催 宇陀市文化会館かぎろひホール 講師：和田 萃氏 参加者 400名 3. 平成24年12月 9日(日)「大宇陀重伝建のまちなみ視察」開催 案内：大宇陀ボランティアガイド 参加者 40名

事業報告書

事業名	ツルマンリョウ保存事業
実施団体	ツルマンリョウ保存事業委員会
実施状況	<p>5月 9日 市文化財課及びウェットランド研究所（植物） 所長と現地視察</p> <p>5月12日 ツルマンリョウ保存事業の打合せ</p> <p>6月 3日 鹿対策について委員会開催</p> <p>6月13日 県文化財課へツルマンリョウの保存について申請</p> <p>10月 4日 進入路及びツルマンリョウ周辺整備 草、雑木の伐採</p> <p>11月28日～29日 獣害保護ネットの設置</p> <p>3月 6日～28日 水路U字溝31m設置 遊歩道60m設置</p> <p>【事業実施の様子】</p> 
事業効果	<p>従来は専門家を除き、一般の方や地域住民にもあまり知られていなかった天然記念物ツルマンリョウが、この事業の実施により地域住民はもとより一般の方や観光客にまでも認知されるようになりました。今後も整備を進めることにより、宇陀市の新しい観光資源となると考えます。</p>
特記事項	<p>ツルマンリョウ保存事業によりツルマンリョウの生育が良くなり花が咲き実を稔らせ本来のツルマンリョウの姿に成長していくことを期待しています。</p> <p>遊歩道については、予算の関係上入り口より60m設置残り70mは次年度の事業を計画しております。</p>

事業収支決算書

【収入】

科 目	金 額	内 訳
市補助金	449,000	宇陀市まちづくり活動応援補助金
寄付金	203,597	地域関係者寄付金
合 計	652,597	

【支出】

科 目	金 額	内 訳
事務費	5,800	プリンター用インク代
	220	コピー代
食糧費	11,590	弁当、お茶代（14人）
燃料費	6,900	建設機械燃料
消耗品費	118,997	材料代（防護ネット含む）
リース費	188,000	重機、クローラ、回送代
委託料	321,090	施工請負委託料
合 計	652,597	

事業実施団体

名称	ツルマンリョウ保存事業委員会
所在地	宇陀市榛原檜牧964番地
設立の経緯・目的	当所のツルマンリョウ群生地が最近特に荒れていることを憂い、将来に向けて早急なる保存を鑑みて。
主な活動内容	主題のツルマンリョウ保存目的が喫緊の事業と考え、まず委員を7名選出して3回にわたり善後策を検討し、要旨の内容となる。

事業報告書

事業名	宇陀松山華小路 ダリアな名物開発プロジェクト
実施団体	宇陀松山華小路実行委員会
実施状況	<p>1. 市内外PR&amp;ニーズ発掘キャラバン◆各所でイベントのPRとデザイン画の募集を行う。16点の応募。◆ライトアップ会場にて「華小路総選挙」と銘打ってデザイン画の人気投票と、ダリアアレンジメント教室も開催。</p> <p>2. 宇陀松山華小路の実施◆ダリアの花摘み→花ならべ→観賞→交流会→ミニコンサート→持ち帰り解禁、という流れのイベントを実施。2日間で約900人の来訪者。◆奈良町家の芸術祭HANARARTを開催し、作品として参加。会期中の来訪者は4000名を超えた。</p> <p>3. お土産の開発◆畿央大の村田浩子教授を招いてダリア染め教室を開催、お土産開発作業も含め作品を作成した。◆事業成果として、ダリア染めグッズの商品としての質を向上させること、ダリアの花びらを漉きこんだカギと樹脂埋包による小物を試作することとした。</p> <p><b>【事業実施の様子】</b></p> 
事業効果	<p>1. 市内外のPRキャラバンでは、ダリアを利用したお土産でどのようなものがほしいかというシールアンケートも実施。</p> <p>2. 花摘みボランティア15名、花ならべボランティアについては数えきれない多くの方にご参加いただくことができた。今年は大宇陀高校野球部のボランティアが活躍していた。初の試みとして型紙を使った下絵作成を行い、手法として有効なことが確認できた。HANARART出展作家の交流会を実施。市内外から参加者の親睦を図ることができた。</p> <p>3. ダリア染め教室を開催し、お土産開発の一環として染物に取り組んだ。村田教授からも助言を頂き、宇陀産ダリアを原料としたものに付けるロゴ、パッケージのデザインを実行委員会内で制作し、来年度以降のキャラバン先やイベント参加の際に参加者等の反応を観察することとする。</p> <p>以上3つの活動を通じ、ダリアに触れる機会を創出することで多くの人にダリアの魅力を伝えることができた。また、宇陀市のダリアの花を利用したお土産作りについては、未知数な点が多いがいくつか形にすることができた。</p>

事業収支決算書

【収入】

科 目	金 額	内 訳
市補助金	400,000	宇陀市まちづくり活動応援補助金
負担金	12,000	ダリアアレンジ教室参加費@2,000名×6名
	6,000	ダリア染め教室参加費@1,000円×6名
自己資金	4,498	自己資金
合 計	422,498	

【支出】

科 目	金 額	内 訳
諸謝金	40,000	アレンジ講師謝礼20,000円 染め講師謝礼 20,000円
消耗品費	76,698	事務用品購入代、軍手、ダリア染め道具代、 保管用コンテナ他
印刷費	20,510	DM, チラシ印刷代、コピー代、プリント代等
食糧費	10,400	スタッフ賄い代800円×13名分
役務費	4,200	チラシ送代他、郵送料
使用料	4,100	ギャラリー使用料
材料費	266,590	ダリアアレンジ材料代、ラッピング用品代、 染め材料代等
合 計	422,498	

事業実施団体

名称	宇陀松山華小路実行委員会
所在地	宇陀市大字陀下出口2266番地
設立の経緯・目的	2009年春、宇陀がダリア球根生産の主要産地と知り、それを広く周知し、生産者を応援したいとの想いでイベントを企画運営するために実行委員会を立ち上げた。当実行委員会は、歴史的町並みを地域の名産の花で飾るイベントを通じて、宇陀市の魅力発信、参加型のまちづくりの促進に努めることを目的として活動を行っている。
主な活動内容	①定期的に話し合いの場を設け自分達に必要な支援、政策はどんなことか見極め、その実現に向けてアプローチし活動する ②実情把握のため他の都道府県、市町村の母親と勉強や交流の場を設ける ③世代を越えた地域住民とのコミュニケーションの環を作る ④イベントを開催し、自分達の活動趣旨を発信する

事業報告書

事業名	宇陀観光プロジェクト
実施団体	SINCE2000
実施状況	<p>旅行会社「クラブツーリズム」と連携し新たな旅行企画を実施、宇陀市の魅力を観光産業にしていく活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月20日の宇太水分神社の秋祭りに合わせて、ツアー「宇太水分神社の秋祭り」を企画し旅行会社と連携して募集・実施。 参加者 17名</li> <li>・3月27日、ツアー『宇陀松山』の町家めぐりと『室生寺』の旅を企画し旅行会社と連携して募集・実施。 参加者 15名</li> </ul>
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つのツアー共、参加者は少なかつたものの、添付のアンケート結果に出ているようにとても好評で、参加者は大変宇陀に興味をもってもらい、リピーターが期待できる。</li> <li>・昼食やお土産の地元の業者が積極的に協力してもらえるようになってきた。</li> </ul> <p>【事業実施の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀の観光ツアー企画の継続が必要です。</li> </ul>

事業収支決算書

【収入】

科 目	金 額	内 訳
市補助金	300,000	宇陀市まちづくり活動応援補助金
負担金	2,078	S I N C E 2 0 0 0 負担金
雑収入	6,742	昇栄堂・西昭和堂・宇陀ガーデン (土産物販売に対する手数料)
合 計	308,820	

【支出】

科 目	金 額	内 訳
委託料	240,000	パンフレットの制作・配布・募集 応募者の対応・申込の受付等 ガイド料2件
謝金	30,000	2日×15,000円=30,000円
消耗品費	37,305	コピー用紙、インク、ファイル等
通信費	1,065	振込手数料2件
使用料	450	駐車場使用料
合 計	308,820	

事業実施団体

名称	S I N C E 2 0 0 0
所在地	宇陀市榛原萩原1783番地
設立の経緯・目的	町の将来を危惧する意識を持った若者が集まり榛原の活性化と、子どもたちにふるさと榛原の良さを知ってもらい、郷土愛を高めるために祭りやイベントを通じて「子どもたちが参加できる祭りを自分達で考え・作り、榛原を自慢できる子どもたちを育てたい」との思いを持って設立しました。
主な活動内容	現在は宇陀市のイベントの共催や後援、B級グルメの「ごっつおまん」の考案と販売。並びに奈良県「まちづくり協議会」に参加。 今までは、榛原の秋祭りの復活や倭太鼓「榛」の創立を行ってきました。 平成23年11月 宇陀市商工会主催のイベント……後援 平成24年 3月 宇陀市観光連盟……物産品出品 平成24年 4月 榛原観光協会……イベント共催 平成24年10月 宇陀観光プロジェクト……旅行企画共催

事業報告書

事業名	花の里「西谷」プロジェクト
実施団体	花の里「西谷」プロジェクト
実施状況	<p>①研修（国際会議参加、講師招聘研修会）                  ②プロジェクト会員募集事業                  ③山アジサイ園に向けての準備事業                  ④イベント事業（盆灯会）</p> <p>【事業実施の様子】</p>    
事業効果	<p>この事業の進めるにあたり地域に新たな方向性が生まれ、地域住民のコミュニティーが活発になり自らの力で西谷をよみがえらせようとする力が表れてきた。特に、養蜂産業に着手する人も現れ新たな西谷として生まれ変わろうとしてきた。                  外部からの協力会員は、80名にもなる見通しです。</p>
特記事項	<p>この事業に知的な助成を頂けるような国、地方公共団体のお世話を願っていることを望んでいます。</p>

事業収支決算書

【収入】

科 目	金 額	内 訳
市補助金	400,000	宇陀市まちづくり活動応援補助金
会費	75,000	プロジェクト会員会費
寄付金	4,322	寄付金
利息	9	預金利息
合 計	479,331	

【支出】

科 目	金 額	内 訳
報償費	30,000	盆灯会出演料
旅費・交通費	11,450	通行料
消耗品費・材料代	113,657	事務用品、材料代、コピー代
印刷・製本費	114,552	チラシ作成代
食糧費・会議費	18,303	お茶代
通信・運搬費	5,440	郵送代
燃料費	3,026	ガソリン代
手数料	630	振込手数料
修繕費	182,273	エンジンポンプ修理、ハウス部材
合 計	479,331	

事業実施団体

名称	花の里「西谷」プロジェクト
所在地	宇陀市室生西谷923番地の2
設立の経緯・目的	<p>室生西谷地区は、嘉吉2年に高貴がこの地に隠遁したのが始まりですが、土地柄耕作地が少なく住民は貧しい生活を余儀なくされていました。この状況を打開しようと江戸時代終期に稲作を可能にするための行動を住民全員で起こし、灌漑用ため池と水路を整備しました。このことは日本国最初の褒賞（藍綬褒章）1号、2号を当時の指導者に賜る歴史的偉業となりました。</p> <p>しかし、基幹産業である農林業の衰退により人口が減少し、とりわけ働き盛りの人口は皆無に等しく、残った高齢者が先人達が築いたこの歴史ある西谷をかるうじて守っている状況にあります。</p> <p>この地区を人の住む地域として存続させることを長年にわたって思案し、他地区の取組みを参考に模索していましたが、宝くじ地域振興助成制度により桜の苗木を頂戴したことを契機に、当地の先人に習って地区を蘇らせようと本会を設立しました。</p>
主な活動内容	<p>① 植え付けた花の管理育成。</p> <p>② 西谷地区の良さを再発見する事業。</p> <p>③ ②を通して他地域との人たちとの交流を促進し、協力を得る活動。</p> <p>④ 中山間を生かした、産業（観光、物産の開発）</p> <p>⑤ 高齢化した住民同士の助け合い活動。</p>

事業報告書

事業名	伊勢街道をテーマとした地域活性化事業
実施団体	紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会
実施状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成25年 6月20日(木) 元三地区への聞き取り調査</li> <li>2. 平成25年 8月 9日(木) 内牧地区への聞き取り調査</li> <li>3. 平成23年11月15日(金) 内牧地区と案内板設置の打合せ</li> <li>4. 平成26年 1月23日(木) 元三地区の屋号看板設置(14枚)</li> <li>5. 平成26年 1月23日(木) 元三地区取材受入れ・「県民だより奈良」3月号</li> <li>6. 平成26年 2月23日(日) 元三地区取材受入れ・奈良TV「とっておきの奈良」</li> <li>7. 平成26年 3月 8日(土) 奈良TV「とっておきの奈良」放送</li> <li>8. 平成26年 3月23日(日) 内牧地区で案内板5基設置</li> </ol> <p>【事業実施の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
事業効果	<p>事業の最終年度で、これまで手がけてきた事業について地域の要望を入れ、伊勢本街道では内牧地区で未設置の大字を無くすため5基の案内板設置を、初瀬街道では元三地区で屋号看板14枚設置を行いました。その結果、予算不足となりマップ制作とウォークイベントの開催は断念することとなりましたが、それぞれの地域でハード整備を完了することで、核となる団体を育成して伊勢街道をテーマとした取り組みが始まりました。</p> <p>また、伊勢本街道では曾爾小学校のふるさと学習や松浦武四郎記念館、曾爾村体育協会、伊勢街道交流フォーラムからのガイド養成を受け、延べ137人を案内。3月16日の「菅笠日記ウォーク」にはスタッフとして参加し、約180人の参加者に伊勢街道の魅力を伝えました。</p>
特記事項	<p>諸木野では私費でトイレの設置を計画している方がおられ、街道を歩く人に対する「施行」の文化が今も残っていることを嬉しく思いました。反面、都市計画道路のため萩原の札の辻周辺の景観が崩れてしまうことを大変残念に思っています。</p>

事業収支決算書

【収入】

科 目	金 額	内 訳
市補助金	300,000	宇陀市まちづくり活動応援補助金
自己資金	2,508	自己資金
合 計	302,508	

【支出】

科 目	金 額	内 訳
報償費	10,000	原稿制作謝礼
消耗品費	21,628	事務用品・案内板資材
委託費	245,520	屋号看板・案内板制作費
通信運搬費	360	神武伝承地現地講座講師
修繕費	15,000	元三地区壁修繕
人件費	10,000	案内板設置@5,000円×2名
合 計	302,508	

事業実施団体

名称	紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会
所在地	宇陀市大宇陀上新1925番地
設立の経緯・目的	紀伊半島交流会議は「吉野・熊野の霊場と参詣道」の世界遺産登録を見据えて、H16年3月末に歴史街道推進協議会の呼びかけで結成されました。その中で伊勢街道分科会は、伊勢本街道沿いの歴史や文化にふれ、そこに住む人々との交流を深めて、伊勢街道を軸としたネットワークの構築を目的として、宇陀市を中心に伊勢街道沿いで活動する人々に呼びかけて結成しました。
主な活動内容	主な活動は、古道を歩き、道標や常夜燈、宿場町等の歴史的資産の調査をし、その情報を発信するためにウォーキングイベントを開催しています。H19年からは風景街道「伊勢街道」連絡協議会において中心的な役割を担い、フォーラムの開催やマップの作成をはじめ、地域の団体と共に古道の復興や道標の再建など街道の歴史的資産の保全活動を進めています。

事業報告書

事業名	市民参加まちの資源を考えるモデル事業
実施団体	まちの資源を考える会「e c o うだ」
実施状況	<p>本年は、昨年の実施に好評を得、継続の声が多く、参加者も昨年の倍以上に膨らみ、予定事業を変更して引き続き家庭生ごみにて循環型社会形成モデル事業の充実を図るために実施した。家庭生ごみ資源活用効果、意識の向上を図る為の広報及び啓発。うだチャンネルにPR放映するビデオの作成。</p> <p>うだチャンネル放映 1回目 8月22日から10日間 2回目 9月 1日から10日間</p> <p>バイオマス利活用の家庭生ごみ収集&amp;堆肥化 準備期間 6月～8月末日 生ごみ収集実施9月の火曜日、金曜日 (3日6日10日13日17日20日24日27日) 堆肥化 9月3日～11月末日 (モデル事業参加35軒、家庭ごとに回収。)</p> <p>【事業実施の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
事業効果	<p>家庭生ごみにおける循環型社会啓発運動のモデル事業は、その後継続を求めのご意見をたくさん頂いた。その事は、市行政側（環境対策課・まちづくり支援課）を交えたモデル事業参加者との懇談会開催案内における返信はがきで頂いた意見からもその熱意がうかがえる。その発表資料を一読頂ければ、さらに良くご理解頂ける。また、その翌月のバイオマス利活用勉強会は、参加者で会場が満杯になるほどの市民がみえたことからその熱意が伝わってくる。このモデル事業は、さらなる飛躍が可能であり、家庭生ごみの削減におおいに期待が出来る。それは、ゴミ焼却場の延命から縮小が図れる効果が望めるものである。</p>
特記事項	<p>この助成モデル事業は、次段階においてバイオマスに限らず、3Rに代表される市全体のごみ資源活用まで広がる要素が見通せるようになってきた。</p>

事業収支決算書

【収入】

科 目	金 額	内 訳
市補助金 事業協賛金	300,000 7,361	宇陀市まちづくり活動応援補助金
合 計	307,361	

【支出】

科 目	金 額	内 訳
P R ビデオ制作費	50,000	企画制作会社（株）ビーワン／ダイコム
P R 放映費用	20,000	N P Oメディアネットうだ
委託費	220,000	家庭生ごみ個別回収費用及び堆肥化費用
使用料	10,450	西公民館（4月～11月） 東公民館（12月～3月）
食糧費	3,011	お茶代
通信費	3,900	切手・葉書 各30枚
合 計	307,361	

事業実施団体

名称	まちの資源を考える会「e c o うだ」
所在地	宇陀市榛原大貝332番地
設立の経緯・目的	宇陀市から、ひとに優しく暮らしやすい環境をみんなで築き、みんなで分かちあい、みんなで守り育てていくことを考え、世代を越えて行動する仲間が集まり、循環型社会を推進することを目的としてH22年7月に設立。
主な活動内容	①廃棄され、焼却されるゴミの分別の啓発活動 ②分別された資源の活用を地域の活性化と共用させる活動 ③バイオマスの活用から食育への貢献 ④3R運動の推進から循環型社会の形成についての啓発活動 ⑤ゴミの削減とゴミ焼却炉の延命への啓発活動 ⑥CO <sub>2</sub> の発生抑制に取り組み地球温暖化防止へ協力